

講義名	対1)文化人類学			授業形態	
担当教員	植野 加代子	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生
				ナンバリング	

主題と概要

文化人類学では、アジアの文化を通じて異文化を理解し、自文化をとらえ直すことを主題とする。この講義では、特にアジアでの庶民の生活文化を、文献資料だけではなく、フィールドワーク・写真・映像資料等を用いて紹介する。各国の文化・生活習慣・祭礼などの具体的な事例を取り上げ、多様な異文化の理解を深めると同時に、講義でとりあげる各国以外の国の生活習慣とも比較しながら講義を進める。

到達目標

アジア各地の事例をとおして文化の多様性と普遍性について知り、当たり前だと思っていた自国の文化に対する新たな見方ができるようになる。さらに、異文化を知ることで思考力や想像力の幅を広げ、自由な発想や知識を生みだすことを身につけることができるようになる。

提出課題

講義では、毎回、感想文や課題などを記入し、小レポートとして提出をしてもらう。小レポートの提出課題は講義ごとに伝える。小レポートとは別に、講義に関連した事例について、レポートの提出を求める。レポート課題については、別途、講義中の説明ならびにRYUKA Portalを通じて掲示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回の講義で書いてもらう小レポートの内容は、提出後に講義内で、文化人類学に関わる事例の一つとして紹介する。

評価の基準

評価は、以下の2点を総合しておこなう。
 平常点として、毎回(15回分)の小レポート(60点)
 課題レポート(40点)
 評価の基準は、第1回目の講義時にシラバス用紙を配付し、詳細を伝える。

履修にあたっての注意・助言他

講義中に学んだことを、日常生活の中でも実際にどういう場面があるかを考えてみる。講義中、私語などをし、他人の学習の妨害をしないこと。そのような、受講態度が好ましくない学生には退学を求めることがある。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

【資料】
 毎回、プリント資料を配付する。
 【参考文献】
 講義中に適宜紹介する。

授業計画

1. 文化人類学とは
フィールドワーク
2. インドネシアの文化
少数民族の住居
3. インドネシアの文化
伝統舞踊・伝統楽器
4. インドネシアの文化
生業
5. インドネシアの文化
祭礼・奉納
6. ベトナムの文化
年中行事1
7. ベトナムの文化
年中行事2
8. ベトナムの文化
婚儀
9. ベトナムの文化
少数民族の農業と市場
10. ブータンの文化
民族・伝統衣装
11. ブータンの文化
市場と食
12. ブータンの文化
住居と建築様式
13. ブータンの文化
宗教と祭礼
14. ブータンの文化
仏教文化と祭礼
15. インド(シッキム・ダージリン)の文化
山地の生活と鉄道

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	○	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【予習】
 講義で取り扱う各国の概要や興味ある事例をあらかじめ自分で調べる(約2時間)。
 【復習】
 講義終了時、講義内容に関わる小レポートを記入する。また、自分で講義から得た自国の文化と自国の文化を比較し、相違点や類似点などを考えたりする(約2時間)。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

諸外国の習慣や文化を知ることにより、新しい視点や豊かな発想によって、新たな価値を生み出すことができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この講義は、板書・プリント資料を用いた形式で進める。また、毎回の授業において、受講生自らの感想や考えなどを用紙に記入する時間を設ける。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり、東南アジア諸国の日本語学科の学生に指導するだけでなく、学生や地域の人々と日常生活や行事などを一緒に体験したり現地でも教えてもらった。その他、東南アジア諸国だけでなく、ブータン王国やヨーロッパ諸国などへ現地調査に行った実務経験を有しており、その経験を活用し、講義を行う。

備考

講義の進め方の詳細は、第1回目の授業で説明をする。
 感染防止のため、教室では、座席の間隔をあけたり、教室の換気や手の消毒などを徹底する。
 受講生が、一時的に通学困難になった場合、授業の資料や課題などの連絡は、個別にメールで対応させていただく。
 この講義では、世界の生活習慣のすべてがテーマとして扱える。そのため、日々の生活をなげなく過ごすのではなく、生活習慣・文化・行事など日頃から関心や興味を持って生活するように心がけられている。世界の人の日常生活がすべて資料であり、受講生自身の日常生活も資料となるため、各国各地の特色を皆さんと一緒に考えていきたい。